

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10327

研究課題名(和文) 身体合併症をもつ精神疾患患者への訪問看護サービスの実態と課題

研究課題名(英文) Issues in the practice of home-visit nursing for patients with both mental and physical disorders in Japan.

研究代表者

荻野 夏子(Ogino, Natsuko)

東海大学・医学部・講師

研究者番号：80266600

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：報告された身体疾患の診断名数は338コードで、内分泌系疾患が47.2%、高循環器系疾患が25.1%だった。訪問看護師では、特に内分泌、栄養および代謝性疾患をもつ場合、看護ケアとして医療処置、家族支援、精神的ケアを実施しているものが有意に多く、幅広い看護ケアが必要だった。対応困難の内容についての自由記載の分析から、健康問題の解決だけでなく、患者自身が健康問題に主体的に取り組めない可能性が示唆された。インタビュー調査では、十分なケアができない社会背景や、患者自身の認識や病状によって、訪問看護において精神障害者の身体的健康問題に積極的に取り組めていない場合があることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神障害者が地域で健康な生活を送るためには、精神疾患とともに身体的な健康問題に取り組む必要がある。精神疾患と身体疾患の両方の健康問題を持つ人の特徴を明らかにし、実際に実施されている看護の特徴を明らかにした。訪問看護師の視点から、精神障害を持つ人は病状や生活基盤が整わないこと、医療への不信感などの様々な困難があり、主体的に自分の健康問題に取り組めない場合があることが、課題として明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The number of reported physical illness diagnoses was 338 codes, with 47.2% for endocrine disorders and 25.1% for high cardiovascular disorders. Home care nurses needed a wide range of nursing care, with significantly more of them implementing medical procedures, family support, and emotional care as nursing care, especially with endocrine, nutritional, and metabolic diseases. Analysis of the free-text descriptions of coping difficulties suggested that the patients themselves may not be able to proactively address their health problems as well as solve their health problems. The interview survey revealed that the social background of inadequate care and the patients' own perceptions and medical conditions may prevent them from proactively addressing the physical health problems of the mentally disabled in home nursing.

研究分野：精神保健看護学

キーワード：精神科看護 訪問看護 身体合併症 地域ケア 精神障害者

## 1. 研究開始当初の背景

2010 年ころより、精神疾患を基礎に持つ患者の身体疾患についての調査結果が発表された。その報告によると精神疾患患者の平均寿命は一般人口よりも 13-20 歳程度短いと推計され原因や対策について議論された。我が国の精神疾患患者の身体疾患の現状を調査した研究では、Sugai ら(2016)が統合失調症の患者についてメタボリック症候群の全国調査を行っている。Sugai らによるとメタボリック症候群と診断される統合失調症患者は外来患者で 34.2%、入院患者が 13%であった。精神疾患患者のメタボリック症候群、糖尿病、心疾患などの身体疾患の発症のメカニズムには患者が長期にわたって服用する抗精神病薬の影響が指摘されている(田尻ら, 2015)。しかし一方でアメリカにおける統合失調症患者糖尿病および心血管疾患への取り組みについての文献検討では抗精神病薬を内服している患者の 70%がスクリーニングや治療を受けていないことが指摘されており(Mangurian C, et al. 2016)、精神疾患患者があわせもつ身体疾患への取り組みはいまだ不十分であり、今後の課題であると考えられた。

## 2. 研究の目的

本研究では身体疾患をあわせもつ精神疾患患者への訪問看護に焦点をあてる。精神疾患患者が地域で自立して生活するためには訪問看護での精神的状態像の管理だけでなく、身体管理の視点が必要である。そこで現在実施されている、身体疾患をあわせもつ精神疾患患者への訪問看護実践の実態を知り、今後の課題を明確化する。

## 3. 研究の方法

### (1) 1次調査：無記名調査票を用いた実態調査

1次調査の目的は、訪問看護サービスを受けている精神疾患患者の身体的な健康問題の傾向や訪問看護サービスの内容について調査票を用いて把握することであり、訪問看護サービスの実態を知ることであった。

#### ① 研究協力施設への依頼方法

調査票は日本精神科看護協会主催の精神科訪問看護研修会基礎編に参加した訪問看護ステーションに配布する。参加期間は 2016 年から 2018 年に開催された研修会した。

#### ② 調査票の依頼と回収

調査は郵送法で行った。研究対象者は訪問看護ステーションの管理者であった。

#### ③ 第1次調査：調査票の内容

調査票の内容は以下の通りである。精神疾患患者(疑いを含む)の受け入れの有無、訪問看護ステーションの基礎データ、身体疾患をあわせもつ精神疾患患者の概数(2018年1年間)、身体疾患をあわせもつ精神疾患患者のケース報告(最大3例)設問は基本的に選択肢による回答であるが、一部に自由記載を含んでいる。調査の対象期間は 2018 年度とした。また 2 次調査への協力施設の募集を同封した。

#### ④ 1次調査の分析方法

訪問看護サービスが提供されている患者の精神科的特性や、身体的な健康問題の傾向、訪問看護サービスを明らかにするため、統計ソフト(SPSS)を用い、記述統計で分析した。さらに収集した対応困難についての自由記載について、質的帰納的分析を行った。

### (2) 2次調査 訪問看護ステーションごとのグループインタビューによる探索的調査

2次調査の目的は、実際に身体疾患をあわせもつ精神疾患患者のケアの経験を持つ看護師から現状について聴取し、今後の課題を探索することである。

#### ① インタビュー対象者の選定基準

インタビュー参加者は、実際に身体疾患をあわせもつ精神疾患患者を担当しケアに当たった経験のあるもの、施設管理やまたは現場でリーダー的役割をしているもの、直接的には患者のケアに当たっていないが治療チームとして関わり患者のケアについて知るもの、のいずれかの条件をみたす訪問看護ステーションの職員で研究参加に同意が得られたものとする。訪問看護の実践経験や職種は問わない。

#### ② グループインタビューの調査内容

身体疾患をあわせもつ精神疾患患者のケースをもとにケアの実際と課題についてインタビューガイドを用いた半構成的インタビューを実施した。調査項目は①研究参加者の基礎データ(年齢、性別、訪問看護経験年数、資格)②訪問看護実践報告と看護実践の課題であった。

## 4. 研究成果

### (1) 1次調査の成果

**調査施設の概要：** 研究対象は 2016 年からの 3 年間に日本精神科看護協会主催の精神科訪問看護研修会に参加し住所が確認できた 806 施設であり、166 カ所から回答を得た(回収率 20.1%)。看護実践ケース報告は計 289 ケースだった。施設情報とケースの記載状況から 131 施設(有効回

答率 78.9%)、231 ケース (有効回答率 79.9%) を分析対象とした。

結果①訪問看護ステーションでサービスを提供している身体疾患の種類と割合： ICD-10 を用いて分類したところ、身体疾患の診断名数は 338 コードで、糖尿病などの内分泌系疾患を持つものが 47.2%、高血圧等の循環器系疾患を持つものが 25.1%だった。

結果②上位 5 疾患がケアしているステーションにおいて、全訪問看護指示書に占める精神科訪問看護指示書の割合別にみたステーション種別と特定の疾患との有意な関係はなかった。

結果③内分泌、栄養および代謝性疾患をもつ患者に対して、看護ケアとして医療処置、家族支援、精神的ケアを実施しているものが、有意に多く、幅広い看護ケアが必要な対象であることが明らかになった。

結果④腫瘍および筋骨格系の疾患をもつ患者の看護ケアには特徴があることが明らかになった。

自由記載の分析と結果：回収された調査票のうち、対応困難の内容について自由記載のあった 151 ケースを分析対象とした。自由記載は内容ごとに分割し 231 コードとした。

自由記載があったケースは、成人期の患者が 66%、統合失調症の診断名をもつものが 52%、内分泌代謝系疾患の診断があるものが 41%、循環器系疾患の診断があるものが 25%だった。自由記載を分析した結果、6 カテゴリに 15 のサブカテゴリが含まれた。

結果：項目数の多いカテゴリから順に『看護の方法や成果についての難しさ(62)』『訪問看護を実施継続することの難しさ(49)』『精神疾患をめぐる難しさ(47)』『家族のケアの難しさ(27)』『患者の地域生活の基盤が弱い難しさ(27)』『多職種連携における課題(19)』が見いだされた。

結果まとめ：身体疾患をあわせもつ精神疾患患者の訪問看護において、訪問看護師は身体的な問題を解決することが難しく、成果が出ないことや、患者や家族の協力が得られない状況について対応困難を感じていることが明らかになった。患者の中には、将来への目標を持ってないケースがありケアが難しい現状がある。また患者は精神疾患や身体疾患の問題をもつだけでなく地域生活自体に困難を抱えており、身体疾患のケアに主体的に取り組めていない可能性がある。看護実践としてリカバリーの視点やストレングスの視点が課題に合致することが考えられた。

## (2) 2次調査の成果

参加者の概要：調査には訪問看護ステーション 8 ヶ所が参加し、計 30 名 (看護師 23 名、保健師 3 名、作業療法士 3 名、その他 1 名) が参加した。参加者の平均年齢は 47.3±12.3 歳だった。1 面接あたりの平均参加者数は 3.8±1.6 人、平均面接時間は 61.1 時間 (±1.5 時間) であった。

結果：以下の表に示す

1. 社会背景や医療システムに起因する困難	
支援者が少なく連携が乏しい	支援機関が連携できていない
	HN による長期にわたる抱え込みの弊害
	支える仕組みづくりを模索している
現在の制度ではカバーされない実践が必要	制度上活動に限界があり諦める
	サポートの間隙を埋めるために無報酬のケアを引き受ける
2. 訪問看護場面で生じる困難	
当事者の思いに寄り添うことには限界がある	当事者には身体的治療に取り組めない背景がある
	関わりに答えがない
	当事者の変化を待つ
症状や治療の実態把握が難しい	身体症状の把握が困難
	変化が乏しくケアの評価が困難
3. 当事者が持っている困難	
当事者が医療に安心感をもてない	医療者への不信感がある
	身体的な治療への参加が困難
	関係性をつくりケアを実施する
家族の支援が乏しい	家族と疎遠
	当事者の孤立や孤独を改善する

結果まとめ：訪問看護サービスの実践者は、地域の支援者が少ないこと、診療報酬の範囲が現実と一致しないこと、患者自身の認識や病状から治療に積極的に関われないことなどから、地域社会において精神障害者の身体的健康問題に積極的に取り組めていないととらえられていた。今後の課題としては、問題を抱えた精神障害者や看護スタッフの孤立を解消すること、不足しているサービスから地域の患者の援助ニーズを明らかにすることであったと考えられた。

## (3) 統合的結果及び考察

1 次調査 2 次調査の結果から、地域生活を行う精神障害者には内分泌代謝系、循環器系の合併症が広くみられており、国際的な傾向と一致していた。ケアの場面では支援者は精神障害者の生活基盤の乏しさから患者が主体的に身体の問題に取り組めていない場合があることが課題であると明らかになった。一方看護師の教育、技術についての言及はなく国際的な文献傾向と異なっていた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 荻野 夏子, 吉川 隆博, 櫻井 大輔	4. 巻 64
2. 論文標題 身体疾患を併せもつ精神疾患患者への訪問看護サービスの実態調査 対応困難についての自由記載の分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本精神科看護学会誌	6. 最初と最後の頁 116-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 荻野夏子、吉川隆博
2. 発表標題 Issues in the practice of home-visit nursing for patients with both mental and physical disorders in Japan.
3. 学会等名 26th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS (EAFONS) 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 荻野夏子
2. 発表標題 身体疾患をあわせもつ精神疾患患者への訪問看護サービスの実態調査-対応困難についての自由記載の分析
3. 学会等名 第28回日本精神科看護専門学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荻野夏子 吉川隆博 櫻井大輔
2. 発表標題 身体疾患をあわせもつ精神疾患患者への訪問看護サービスの実態調査
3. 学会等名 第28回日本精神科看護専門学会 in 富山
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荻野夏子 吉川隆博
2. 発表標題 身体疾患をあわせもつ精神疾患患者への訪問看護サービスの実態調査
3. 学会等名 第30回日本精神保健看護学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉川 隆博  (Kikkawa Takahiro)  (00433376)	東海大学・医学部・教授   (32644)	
研究分担者	北村 周美  (Kitamura Megumi)  (00631805)	東海大学・医学部・助教   (32644)	退職

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------